減少）となりました。

経営収支においては、貸出金の減少や長期共済新契約高の伸び悩みと保有高の減少および固定資産減損損失の計上（1,607万円）などありましたが、不良債権の削減による貸倒引当金繰入額の減少、ねぎをはじめとする青果物販売額の増加と農業機械事業などの購買供給高の増加などにより、当期剰余金は1億899万円を計上しました。

◎販売部門

青果物全体で過去最高の販売額を記録

平成29年産米は、作況指数99と田植え後の低温による影響や、山間部の一部地域で登熟の遅れがあったものの、着粒数や登熟良好により反収で地域差が出た年となりました。また、稲刈り時期に降雨が続き、乾燥調整に難儀した生産者が多かったと思われる中、契約数量確保のため、全量集荷推進運動や買取米の推進を実施し、集荷数量24万6,654.0俵、計画対比93.0%（前年対比93.3%）の実績となりました。

販売面では、加工用・備蓄米の取り組みや、飼料用米の増加により需給環境が改善されたことや、概算金・販売価格の上昇の影響により、全農委託米・直接販売米を含めた取扱高は36億9,831万円、計画対比102.8%（前年対比107.7%）の実績となりました。

「白神ねぎ」については、1年を通して高値堅調な販売となり、出荷量3,827.3t、取扱高14億2,353万円、kg単価372円と3年連続となる販売額10億円を突破し、出荷量・取扱高・kg単価ともに過去最高となりました。

他作物についても高単価での販売となったほか、白神青果物の販路拡大のため、トップセールスの開催や、能代市で開催された「全国ねぎサミット」への参加と併せ、様々なイベントでのPR活動に努めた結果、青果物全体では、出荷量5,219.4t、取扱高19億881万円、kg単価366円となりました。取扱高では、計画、前年対比とも105.9%と、過去最高の実績となりました。

◎購買部門

組合員のニーズに対応

生産資材では、多様化する農家ニーズへの対応と魅力ある予約購買体制の強化のため、肥料・農薬超目玉商品8銘柄、肥料の特別価格銘柄14銘柄、超大型規格農薬3銘柄を設定し、生産コスト削減を目指した取り組みと組合員へより多く足を運ぶ渉外活動に努めました。

生産資材の供給高は12億9,156万円、計画対比94.6%（前年対比96.4%）の実績になりました。

生活資材では、組合員ニーズに即した生活に密着した商品の提供と、「安全・安心」を最大限意識した提案をしました。生活関連事業の供給高は2億5,018万円、計画対比100.8%（前年対比98.9%）の実績となりました。

また、農業機械・燃料部門でも組合員に積極的な事業推進に取り組んだ結果、前年以上の実績をあげることができました。

◎信用・共済部門

地域に安全・安心を届ける

信用部門では、組合員・地域住民に愛されるJAバンクをめざし「農業とくらしに貢献し、選ばれ・成長し続けるJAバンク」の実現に向けて取り組みました。

貯金においては、昨年度に引き続き県下統一サマーウィンターキャンペーンの好評により、平成30年3月末貯金残高で398億4,691万円、計画対比101.5%（前年対比101.6%）の実績となりました。

融資につきましては、組合員ならびに地域利用者のニーズに応えるため、住宅ローン、農業資金、マイカーローン・教育ローンの「白神ねぎ販売高14億円突破」特別金利キャンペーンを展開し商品提供をしました。また、農機具関連資金は、前年度に引き続き利子補給制度を活用し農業支援に取り組んだほか、県域営農センターが実施した農機具購入助成事業を活用しながら、農業所得増大に向けた取り組みも進めました。

しかしながら、経済情勢は依然として厳しく、3月末貸出残高は78億3,939万円となり計画対比90.6%（前年対比94.3%）の実績となりました。

共済部門では、「ひと・いえ・くるま」の総合保障の実現に向けて、LAによる全戸への3Q訪問活動を展開しながら、加入内容説

↑議長を務めた大塚忠之さん